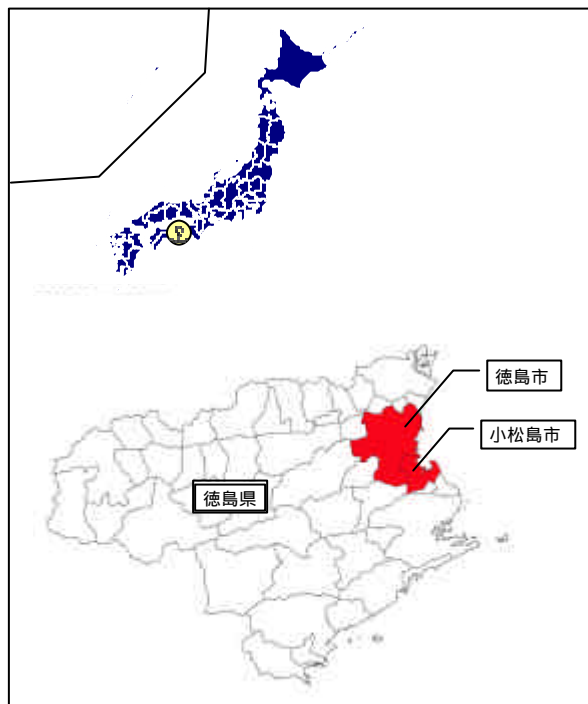


『旅客ターミナル』を活用したみなとまちづくり(徳島小松島港)

地域の現状



徳島小松島港(重要港湾)

港湾管理者: 徳島県

所在市町村: 徳島県小松島市

人口: 44,000人(平成15年3月 住民基本台帳)

観光客数: 約14万人(平成14年 小松島市調べ)

衰退からの脱出を図るみなと



【小松島地区の全景】

重要港湾・徳島小松島港小松島地区は、明治期の修築事業が行われて以来、東四国の玄関口であり、物流と人流の結節点として重要な役割を担ってきた。しかし、平成10年4月に明石海峡大橋の開通により、翌年、和歌山とを結んでいたフェリー航路が沖洲地区に移転することになり、フェリーターミナルなど海上交通と密接な関連をもっていた港湾施設の遊休化が進んだ。

これらの社会経済環境の変化に伴い背後のまちも、商店の郊外移転などが進み、港周辺にあったおみやげ物店、飲食店はわずか3軒に減少し、市街地(商業地域)は人通りも少なく閉めている商店も年々多くなってきている。

このような事態から、平成11年より、市民、大学教授、小松島市、徳島県、国土交通省四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所などによるワークショップや検討委員会が組織されるなど、小松島港の活性化に向けた活動がはじまった。その後、小松島港市民交流センターkocolo(旧南海フェリーターミナル)の設置(平成14年3月)、「NPO法人みなとまちづくりファンタジーハーバーこまつしま」の設立(平成14年2月)、屋内・屋外フリーマーケットの開始(平成14年3月~)、みなとコミュニティビジネスプランづくり(平成14年9月~)など、市民・行政・学識経験者、行政等の協働・連携による港湾活性化の具体的な活動が展開されている。

『旅客ターミナル』を活用したみなとまちづくり(徳島小松島港)

みなとまちづくりの目標

市民に親しまれる「みなとまち」小松島の再生(再活性化)

市民・学識経験者、行政等の協働により、市民による市民のための「憩い空間」、また、地域性を活かした「情緒あるみなと空間」を創出し、本来みなとのあるべき活気を取り戻した「みなとまち」として市民に親しまれることを目指す。



【地域交流センターkoccolo】
(遊休化したターミナルビルを活用した)

活用したみなとの資産

遊休化した旅客ターミナル

和歌山とを結ぶフェリー航路が移転して、遊休化したフェリーターミナルビルを地域交流センターKoccoloとしてNPO港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま等が利用している。

遊休水面

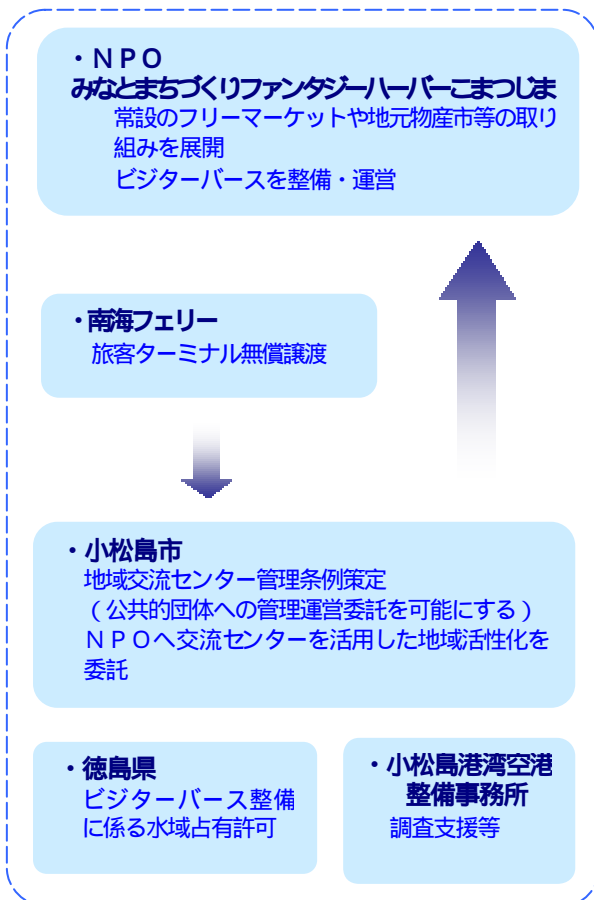
フェリーなどの利用がなくなってしまったため、使われなくなった水域に、NPO港まちづくりファンタジーハーバーこまつしまが浮桟橋の整備を行い、ビジターハーバーとして活用している。

旧旅客ターミナルを高度に活用したみなとまち再生

取り組み体制

平成11年より、市民、大学教授、小松島市、徳島県、国土交通省四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所などによるワークショップや検討委員会が組織されるなど、小松島港の活性化に向けた活動がはじまった。その後小松島港市民交流センターkoccolo(旧南海フェリーターミナル)の設置(平成14年3月)、「NPO法人みなとまちづくりファンタジーハーバーこまつしま」の設立(平成14年2月)、屋内・屋外フリーマーケットの開始(平成14年3月~)、みなとコミュニティビジネスプランづくり(平成14年9月~)など、市民・行政・学識経験者、行政等の協働・連携による港湾活性化の具体的な活動が展開されている。

本取り組みは、NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしまと小松島市、徳島県、国土交通省四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所が連携して取り組みを実施した。



【取り組み体制図】

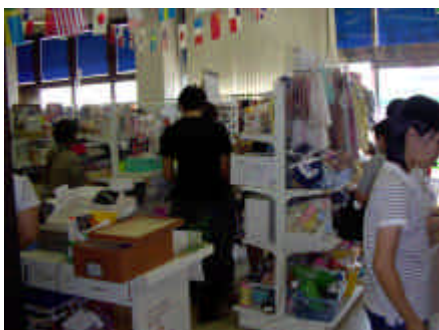
『旅客ターミナル』を活用したみなとまちづくり(徳島小松島港)



【交流センター内のカフェ・メーヴェ】



【フリーマーケットの開催状況】



【交流センター内の常設フリーマーケット】

海が見える「カフェ・メーヴェ」の試行とフリーマーケットイベントの開催

概要

ビジターハーバー利用者やフリーマーケット来場者等の集客力向上を図るため、フリーマーケットイベント時に地域交流センターKocoloのスペースを活用してカフェ・メーヴェを試行した。

この「茶屋」事業の評価検証と、今後のみなと活用の方向性や新たな参加・参画にかかる人材発掘・人材育成を検討するために、カフェ利用者、イベント参加者へのアンケート調査を、フリーマーケットイベント開催時等に実施した。

【カフェ・メーヴェ試行】

実施日 : 平成15年12月～(以降、継続)
カフェ利用者数 : 約2600名(平成15年12月～2月)
カフェ売り上げ : 約90万円(平成15年12月～2月)

【カフェ・メーヴェの開店に合わせたフリーマーケットイベント】

実施日 : 平成15年12月13日(日)(以降、継続)
利用者数 : 約7000名(平成15年12月13日(日))

【交流センターKocolo内での常設フリーマーケットの運営】

実施日 : 平成14年3月～
利用者数 : 約3000名(平成15年12月～2月)

アンケート実施日 : 平成15年12月13～26日(日)

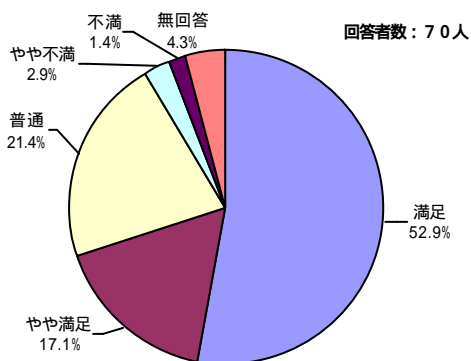
アンケート(イベント参加者) : 194名

アンケート(カフェ利用者) : 70名

取り組みの成果

好評だった「カフェ・メーヴェ」

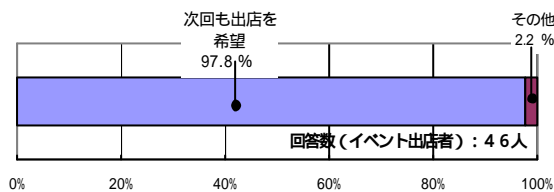
- アンケートによると、利用者の71%が店員の接客態度に満足している。自由回答でも、「メニューの追加」や「今後の継続」を求める意見があり、事業自体は概ね成功といえる。



【カフェ利用者の評価】

『旅客ターミナル』を活用したみなとまちづくり(徳島小松島港)

定着してきたフリーマーケットイベント



【イベント出店者の今後の出店意向】

- イベント参加者の65%が小松島市民であり、その人数から推定すると、小松島市の参加者数は、**約4500名**と推定される。これは、**小松島市人口の約1割**となっている。
- また、イベント出店者の98%が次回の出店を希望しており、小松島港におけるフリーマーケットイベントが定着しつつあることが把握できた。

ビジターハーバー利用者へのアンケート調査

概要

平成15年9月のビジターハーバー開設以来、実施していたアンケート調査を結果を整理し、ビジターハーバー利用者の満足度や要望など今後の対応を検討した。

ビジターハーバー利用者へのアンケートの実施

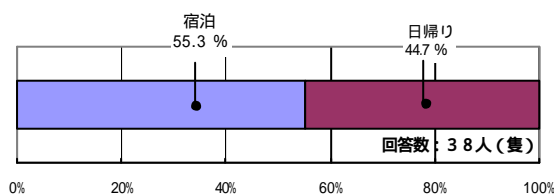
アンケート期間 : 平成15年9月14日～平成15年11月末
アンケート回答者数 : 38人(隻)
利用隻数 : 52隻



【ビジターハーバー(係留状況)】

取り組みの成果

高いビジターハーバー利用満足度



【利用動向(日帰り・宿泊)】

- 浮桟橋の利用料金など運営面では、84%が適切であると答えていることから、利用者の満足度が非常に高いことが把握できた。
- ビジターハーバー利用者の内、55%が小松島市内に宿泊し、一人当たりの市内消費額は約5000円であった。
- ビジターハーバー利用者のニーズが高い施設としては、浮き桟橋の規模拡大とシャワー施設の設置が挙げられている。

今後のみなとまちづくりの取り組みへ

利用者のニーズに応えられる仕組みの充実

今回のイベント参加者やカフェ・メーヴェ利用者、ハーバー利用者の意向、要望は今後の取り組みの方向性の検討などに参考となるものが多かったことから、これらを踏まえた新たなメニュー開発を図っていくとともに、これらのニーズの変化を敏感に把握し、応えられる仕組みづくりを検討していく。